

「真っ赤！」

もうすぐ、春節（旧正月）を迎えます。今年の干支は「寅年」ですね。かく言う私も「年男（自称36歳?）」です。日本では還暦（60歳）を迎えた人に、「赤いちゃんちゃんこ」を贈る習慣があるそうですが、中国にも似たような風習があります。中国では、「本命年（年男、年女のこと）」の人に「赤い下着」を贈ります。この時期、スーパーのあちらこちらに「赤い下着」が並んでいます。中国では「赤」が「祝」をあらわすのは、皆さんご存じだと思いますが、実は「赤」には、「祝」のほかに「厄除け」という意味があります。そんなことから、中国には「本命年の人は、赤いものを肌が一番近いところに身につけて、厄から身を守る」という習慣があるのです。私も中国の友人から、赤い下着（セット）をもらいました。もうすぐ春節、この下着を着ようかどうか、ちょっと躊躇している私です・・・。



正司 毅

「サハリン州政府との協力協定締結」

日本の暦では、立春も過ぎましたが、当地はまだまだ厳寒期（今年は特に寒い）連日当たり前の様に、氷点下25位を記録しております。しかし、日没は着実に遅くなってきている事を考えると、春遠からじ・・・と言った所です。去る、2月9日当地にて、サハリン州政府と北海道銀行との間で協力協定所の調印式が開催されました。



ロシア側はホロシャピン知事をはじめとする州政府幹部、日本側は堰八頭取をはじめ、高原北海道副知事らが出席いたしました。サハリン州と北海道銀行は、従来より友好的な協力関係にありましたが、今回の協力協定の締結により、より一層具体的・効果的に進めることができます。また、当地のマスコミでも大きく取り上げられ、ホロシャピン知事も「サハリン州（ロシア）と北海道（日本）の経済協力の発展には、金融分野はなくてはならないものであり、日本で大きな実績のある北海道銀行の当地での活動には感謝と期待をしている」と述べております。我々はお客様あつての営利企業です。今回の協力協定締結も、お客様のビジネスチャンスの拡大のためであり、日本とロシアをつなぐ架け橋です。ロシアビジネスの御相談は御遠慮なく国際部ロシア室、当事務所まで御連絡下さい。

樋口 充

「2月駐在員レポート」第3回中日友好スキー交流事業 始まる！」

1月13日から1月20日まで、第3回目となる日中友好スキー交流事業が行われました。北海道スキー連盟に所属するスキーインストラクターが、北京市内・近郊の二つのスキー場でインストラクターをしている中国人の先生達に本場の技術を指導する、という中、この事業は、北海道スキー連盟と中日友好協会、中国芸術文化普及促進会、そして当札幌経済交流室（当室は日中の調整役でありこの事業の直接の当事者ではありません）がスキーを通し日中の友好を図ると共に、中国人のスキー人口の増加及びスキーレベルの向上に寄与し、将来的にアジアではスキーの本場である北海道に来てスキーをしてみよう、いわゆる北海道への中国人観光客を増やすという長期的ビジョンで動いています。札幌への中国人観光客は2009年度で約4万7千人（宿泊実人数）となっていますが、今年度は最近の動向を見る限り7~8万人にのぼるのはほぼ間違いありません。‘スキー観光客’という統計はありませんが、札幌 北京の直行便を運行する中国国際航空に乗り込む中国の方を見ると、スキーやボードを担いだ人の多さに驚きます。



そういった意味では、北海道へのスキー観光客を増やす為の地道な活動も決してポイントとしてはずれていないと実感しています。3月10日~3月17日には舞台を北海道に移し、上記の指導を受けた人の中から上級者を招き、連盟公認である級の取得をサポートします。小職も同行し、サポートする予定です。

中島 康成